



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月29日

上場会社名 アツギ株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3529 URL <https://www.atsugi.co.jp/>  
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）日光 信二  
問合せ先責任者 （役職名）取締役執行役員管理本部長 （氏名）古川 雅啓 TEL 046-235-8107  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	15,712	△1.1	△681	—	△577	—	△710	—
2025年3月期第3四半期	15,879	0.5	△595	—	△47	—	793	△35.6

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 585百万円（△10.9％） 2025年3月期第3四半期 657百万円（△61.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	△44.38	—
2025年3月期第3四半期	49.52	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	40,766	32,245	79.1
2025年3月期	40,847	31,662	77.5

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 32,245百万円 2025年3月期 31,662百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	22,200	1.5	△700	—	△500	—	△700	△43.71

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	17,319,568株	2025年3月期	17,319,568株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1,304,291株	2025年3月期	1,301,997株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	16,016,145株	2025年3月期3Q	16,019,199株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げに伴う雇用・所得環境が改善している一方で米国の通商政策による影響や資源・エネルギー価格の高騰、金利・物価の上昇に伴い、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

繊維業界においては、一部のインバウンド需要はあるものの、物価上昇の長期化等による消費者の生活防衛意識や節約志向の高まり等の影響から消費の縮小がみられ、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは2026年3月期から2028年3月期までを実行期間とする中期経営計画『アツギグループ 中期経営計画 2025-2027』において、「顧客視点による価値の最大化」、「新たな発想による価値創造」、「圧倒的な競争力強化」、「人的資本経営による組織力の強化」、「資産の有効活用促進」の5つを基本方針とし、2028年3月期までに連結営業利益10億円を実現するための取り組みを進めております。あわせて、「肌と心がよるこぶ、今と未来へ。」をパーパスに、「肌心地から、感動を生み出す フィールウェアのアツギへ。」をビジョンとし、グループ一丸となってこれらを実現させるための取り組みを進めております。

当第3四半期連結累計期間は、重点取組項目であるD2C (Direct to Consumer) 販売において、顧客目線での商品企画・開発を行った新たなアイテムの展開や、オペレーション体制の強化により自社オンラインショップ及びECモールでの収益力の強化を進めております。また、顧客に密着し市場トレンドを反映した商品の企画・開発に取り組み顧客満足度の向上に努めております。しかしながら、消費者の生活防衛意識や節約志向の高まり等により全体の売上高は前年を下回る水準で推移いたしました。利益面においては、商品価格の一部見直しで改善を図りましたが、長引く円安基調による調達コストの高止まり、原燃料価格や物流費、人件費の上昇等により厳しい状況で推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,712百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業損失は681百万円（前年同四半期は595百万円の損失）、経常損失は577百万円（前年同四半期は47百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は710百万円（前年同四半期は793百万円の利益）となりました。

セグメント別の経営成績を示すと、次のとおりであります。

#### 〔繊維事業〕

レグウェア分野は、新たな発想による価値創造への取り組み強化により、OEM（相手先ブランド製造）における販売が増加したものの、物価上昇による消費者の生活防衛意識や気候変動の影響等により全般的に苦戦し、同分野の売上高は8,412百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

インナーウェア分野は、主力販路である量販店の売場減少の影響により苦戦が継続しているものの、OEM（相手先ブランド製造）における販売が増えたことにより、同分野の売上高は6,313百万円（前年同四半期比0.1%減）となりました。

これらの結果、当事業の売上高は14,725百万円（前年同四半期比1.5%減）、営業損失は1,036百万円（前年同四半期は940百万円の損失）となりました。

#### 〔不動産事業〕

保有資産の有効活用を進めており、2024年10月より神奈川県海老名市に所有する土地の賃貸を開始したことにより、当事業の売上高は528百万円（前年同四半期比15.0%増）、営業利益は412百万円（前年同四半期比18.2%増）となりました。

#### 〔その他〕

その他の事業につきましては、太陽光発電による売電は天候等の影響により、発電量が減少いたしました。認知症高齢者向け介護施設であるグループホーム及び介護用品の販売につきましては堅調に推移しました。これらの結果、当事業の売上高は457百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は62百万円（前年同四半期比2.8%増）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は40,766百万円となり、前連結会計年度末に比べ80百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少1,945百万円、投資有価証券の増加781百万円、棚卸資産の増加855百万円、機械装置及び運搬具（純額）の増加266百万円等によるものであります。

負債の部は8,521百万円となり、前連結会計年度末に比べ663百万円減少しました。これは主に、流動負債のその他の減少584百万円、短期借入金の減少394百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少352百万円、支払手形及び買掛金の増加352百万円、繰延税金負債の増加292百万円等によるものであります。

純資産の部は32,245百万円となり、前連結会計年度末に比べ582百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失710百万円の計上及びその他の包括利益累計額の増加1,296百万円等によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は79.1%（前連結会計年度末は77.5%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の動向等を勘案し、2025年5月15日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「通期連結業績予想の修正および役員報酬減額の継続に関するお知らせ」をご参照ください。

## (4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2018年まではインバウンド特需もあり営業利益を計上しておりましたが、その後の特需の激減、2020年からの新型コロナウイルス感染症を境にレッグウェア需要は年々減少傾向にあります。円安の進行、原材料費の上昇、物流費の高止まり、人件費の持続的上昇等により製造原価が上昇したため、市場全般に物価上昇傾向が常態化した時点で、価格調整を実施しましたが、営業損益の黒字化となる水準までには至っていないことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況の下、販売面においては市場トレンドを反映した商品提供によりD2C（Direct to Consumer）販売の更なる強化を図っており、加えてヘルスケア商品の拡大、メディカル用途への参入、海外事業の拡大を図ります。原価面においては、2024年12月に竣工・稼働を開始した中国新工場において自動化推進のための設備投資を行い原価の低減を図っており、加えて更なるコスト削減を目指してアセアンでの生産・供給体制の強化等を進めます。財務面においては当第3四半期連結会計期間末での現金及び預金残高は3,460百万円、自己資本比率は79.1%と、いずれも高い水準にあります。

以上の状況により、継続企業の前提に重要な不確実性が認められないと判断しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,406	3,460
受取手形及び売掛金	4,311	4,055
商品及び製品	4,229	4,984
仕掛品	995	1,134
原材料及び貯蔵品	477	438
その他	1,435	1,544
貸倒引当金	△22	△24
流動資産合計	16,832	15,593
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,208	3,382
機械装置及び運搬具（純額）	3,342	3,608
土地	12,745	12,771
建設仮勘定	154	57
その他（純額）	126	134
有形固定資産合計	19,577	19,955
無形固定資産	499	513
投資その他の資産		
投資有価証券	3,702	4,484
その他	234	220
投資その他の資産合計	3,937	4,704
固定資産合計	24,014	25,172
資産合計	40,847	40,766

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,365	1,717
短期借入金	617	223
1年内返済予定の長期借入金	439	86
未払法人税等	146	46
賞与引当金	53	30
その他	2,612	2,028
流動負債合計	5,236	4,132
固定負債		
繰延税金負債	944	1,236
再評価に係る繰延税金負債	1,324	1,324
退職給付に係る負債	883	933
その他	795	893
固定負債合計	3,948	4,388
負債合計	9,184	8,521
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	10,272	10,272
利益剰余金	△1,110	△1,821
自己株式	△1,470	△1,473
株主資本合計	27,690	26,977
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,357	1,907
繰延ヘッジ損益	384	404
土地再評価差額金	351	351
為替換算調整勘定	1,878	2,604
その他の包括利益累計額合計	3,971	5,268
純資産合計	31,662	32,245
負債純資産合計	40,847	40,766

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年12月31日)
売上高	15,879	15,712
売上原価	10,765	10,745
売上総利益	5,114	4,966
販売費及び一般管理費	5,709	5,648
営業損失(△)	△595	△681
営業外収益		
受取利息及び配当金	147	77
為替差益	345	27
リース解約益	63	—
その他	39	40
営業外収益合計	596	146
営業外費用		
支払利息	20	10
租税公課	16	23
その他	10	8
営業外費用合計	47	42
経常損失(△)	△47	△577
特別利益		
固定資産売却益	6	18
投資有価証券売却益	877	68
特別利益合計	883	87
特別損失		
固定資産売却損	—	15
固定資産除却損	43	0
減損損失	—	156
投資有価証券売却損	3	—
特別損失合計	46	172
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	790	△662
法人税、住民税及び事業税	116	22
法人税等調整額	△120	25
法人税等合計	△3	48
四半期純利益又は四半期純損失(△)	793	△710
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	793	△710



(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	793	△710
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△144	549
繰延ヘッジ損益	△303	20
為替換算調整勘定	311	726
その他の包括利益合計	△136	1,296
四半期包括利益	657	585
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	657	585

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
レッグウェア	8,635	—	8,635	—	8,635	—	8,635
インナーウェア	6,321	—	6,321	—	6,321	—	6,321
その他	—	—	—	463	463	—	463
顧客との契約から生じる収益	14,956	—	14,956	463	15,419	—	15,419
その他の収益	—	459	459	—	459	—	459
外部顧客への売上高	14,956	459	15,416	463	15,879	—	15,879
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	14,956	459	15,416	463	15,879	—	15,879
セグメント利益又は損失(△)	△940	349	△591	60	△531	△64	△595

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入、販売、グループホームの運営及び太陽光発電による売電であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない本社等の土地・建物(転用を検討中の土地・建物を含む)に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第 3 四半期連結累計期間（自 2025年 4 月 1 日 至 2025年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
レグウェア	8,412	—	8,412	—	8,412	—	8,412
インナーウェア	6,313	—	6,313	—	6,313	—	6,313
その他	—	—	—	457	457	—	457
顧客との契約から生じる収益	14,725	—	14,725	457	15,183	—	15,183
その他の収益	—	528	528	—	528	—	528
外部顧客への売上高	14,725	528	15,254	457	15,712	—	15,712
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	—	0	—	0	△0	—
計	14,725	528	15,254	457	15,712	△0	15,712
セグメント利益又は損失（△）	△1,036	412	△624	62	△561	△119	△681

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入、販売、グループホームの運営及び太陽光発電による売電であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない本社等の土地・建物（転用を検討中の土地・建物を含む）に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「繊維事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第 3 四半期連結累計期間においては156百万円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年12月31日)
減価償却費	442百万円	430百万円